



 **川崎信用金庫**
川崎信用金庫様

Case Study 1

信用金庫の業務を支える
統合OAシステムの刷新にあたり、
「セキュリティと効率性の両立」をはじめ、
さまざまな課題を総合力で解決。

川崎信用金庫様は、1923年(大正12年)の創立以来、「地域とともに歩む協同組織金融機関」として、神奈川県川崎市を中心とした地域社会の発展に貢献してきました。

同金庫では、本部や店舗における日々の業務処理を担う統合OAシステムを構築していましたが、ハードウェアの更改時期やOSのサポート終了に合わせて全面刷新を決定。セキュリティと効率性の両立をはじめ、事業継続性の強化、汎用性・拡張性の向上、運用負荷の低減、コスト削減など、さまざまなテーマを掲げてシステム構築に取り組みました。

この統合OAシステムの刷新にあたり、日本ユニシスは、深い顧客理解に基づく提案力と、グループの総合力を活かした対応が評価され、システム構築パートナーに選ばれました。同金庫の抱えるさまざまな課題を、シンクライアントやプライベートクラウドといった先端ソリューションによって解決し、公共性の高い事業活動を支える安全かつ効率的な情報インフラを実現しました。

信用金庫の業務を支える 統合OAシステムを全面刷新

2013年に創立90周年を迎えた川

崎信用金庫様は、川崎市を中心とした地域において、大正から昭和、そして平成と、時代が移り変わるなかで、中小企業や消費者の金融円滑化を通じて地域経済を支えるという、変わらぬ使命を果たし続けてきました。そうした歴史の積み重ねによって、地元の方々から「かわしん」の愛称で親しまれ、確かな信頼関係を築いています。

同金庫の地盤である川崎市は、神奈川県と東京都との境目という利便性の高い立地環境にあり、交通アクセスにも恵まれることから、先端産業や研究機関が集積し、再開発計画も相次いでおり、日本でもっとも人口増加率が高い都市

圏です。こうした活気にあふれる地域にあつて、同金庫は地域からの圧倒的な信頼感をもとに安定した成長を続け、預金量、融資量ともに全国トップクラスを誇っています。

同金庫では、各種業務の効率化に向けて、1990年代後半からOAシステムの導入を開始しました。その後、時代とともに更新および拡充を重ね、現在では、パソコンから複合機・プリンタ、メール、ポータルサイト、営業店ネットワークやインターネット接続環境などを含めて、職員の日常業務を支える統合OAシステムとして運用しています。

このシステムの全面刷新を決定したのは、2011年春のことでした。その理由や背景について、システム部の責任者である前島誠部長が説明します。

「直接的な理由は、2006年に構築した既存システムのサーバが更改時期を迎えるとともに、OSとして採用しているWindows XPが2014年にサポート終了となるなど、ハード、ソフトともに刷新すべきタイミングだったからです。とはいえ、ただ時期が来ただけから刷新するということだけではありません。この機を捉えて、統合OAシステムを運用するうえでのさまざまな課題を、すべて解決しようという狙いがありました」

PROFILE

川崎信用金庫

創立	1923年7月18日
本店所在地	川崎市川崎区砂子2-11-1
店舗数	56店舗
預金量	1兆7,457億円(2013年3月末)
役職員数	1,471名(2013年3月末)
事業内容	預金および定期積金の受入れ、資金の貸付および手形の割引、為替取引、上記業務に付随する各種業務 など



三杉 真人 氏
システム部 調査役



庄子 友紀男 氏
システム部 副部長



前島 誠 氏
システム部 部長

セキュリティを保ちながら 業務効率の向上を追求

同金庫では、統合OAシステムの刷新プロジェクトを立ち上げるにあたり、ユーザー、管理者双方の視点から多くの課題を抽出し、それらをトータルに解決する「全体最適」なシステム構築をめざしました。業務継続性を高めるための安定稼働の実現、多様な業務システムを一元管理できる汎用性、将来的な業務形態の変化にも対応できる柔軟性、より戦略的な情報活用の実現、さらには運用負荷とコストの軽減など、解決すべき課題は多岐にわたりましたが、なかでも最重要テーマとして掲げたのが「セキュリティと効率性の両立」でした。

「金融機関では、お客様の個人情報情報にもかかわらず、とくに重要な情報を扱いますので、情報セキュリティには万全を期す必要があります。既存システムを構築した際は、『便利より安全』をコンセプトに、ユーザーである職員の利便性よりもセキュリティ強化を優先しました。構築後も、最新のセキュリティソリューションを適宜導入していったので、パソコンの立ち上げに時間がかかるなど、実際に職員の業務効率を犠牲にしている面もありました（前島氏）

システムの刷新にあたっては、こうした

セキュリティへのこだわりが変わりはありません。しかし、中小企業の経営不振や他行との競争激化など、地域金融機関を取り巻く環境が厳しくなるなかで、お客様へのサービスの源泉となる職員の業務にも、これまで以上の効率化が求められていたと言います。

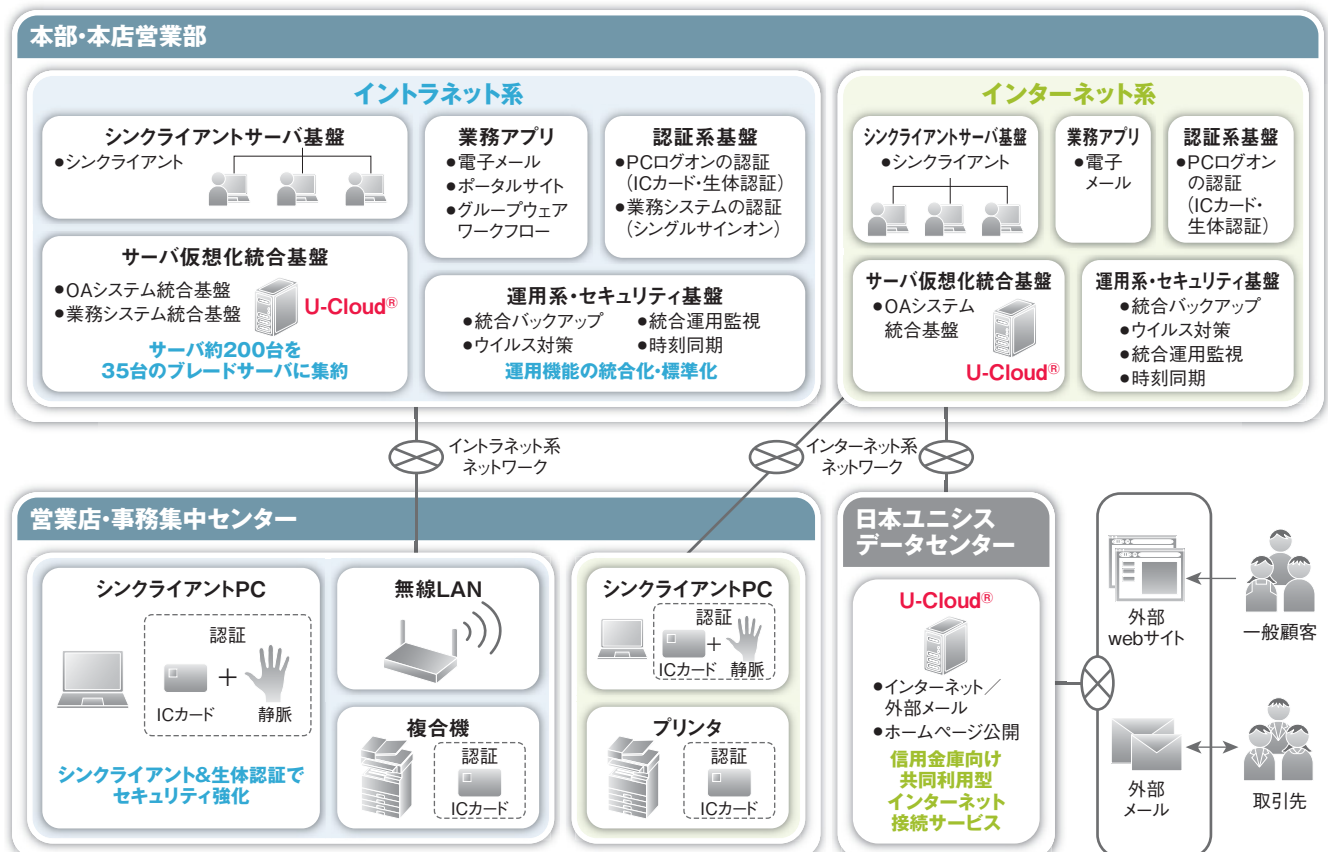
「当金庫にとって、OAシステムは、紙や鉛筆、電卓などと同様に、日常業務に欠かせない『道具』であり、職員にとっては、その使い勝手が業務効率に直結します。これまで同様の強固なセキュリティを保ちながら、同時に職員の業務効率の向上にも貢献する——これが、私たちの求める新しい統合OAシステムのあり方でした」（前島氏）

情報収集段階からの コミュニケーションと 体制の安心感が評価のポイント

「多岐にわたる課題や目的に、どのように取り組むべきか。まずはその方向性を明確にするための情報収集からスタートしました」と語るのは、統合OAシステム刷新プロジェクトの推進役を担ったシステム部 副部長の庄子友紀男氏です。

「既存システムのベンダをはじめ、複数のICT事業者と協力を仰ぎ、こちらの課題をお伝えしながら、どのようなソリューション

「統合OAシステム」概要



※ U-Cloud®は、日本ユニシスグループが提供するクラウドサービスの総称です。

シヨンがあるのか、最新の技術動向や他社事例について『勉強会』という形で情報を提供いただきました。こうした「コミュニケーション」を重ねるなかで、次第にやりたいことが明確になっていきました」

ICT事業者各社と対話を重ねるなかで、とくに印象的だったのが日本ユニシスの対応だったと、庄子氏は振り返ります。

「勉強会そのものへの積極性もさることながら、即答が難しい技術的な質問にもスピーディなレスポンスがあるなど、営業と技術部門の連携がしっかり取れていることが伺えました。また、勉強会をはじめとした「コミュニケーションを通じて、こちらの課題をより深く理解しようとする姿勢を強く感じました。実際、最終的にいただいた提案を比較したところ、機能や性能はもちろん、コスト面や納期対応なども含めて、こちらの希望をバランスよく実現いただける内容で、『よくぞここまでこちらの意を汲んでくれた』と感心すると同時に、多様な課題をトータルに解決できる、総合力をもった会社であることが実感できました」

もう1つ、大きな評価ポイントとなったのが、グループ一丸となった対応力でした。「統合OAシステムは、システム基盤からパソコンなどの端末、ネットワークまで幅広い要素で構築されていますので、全面

刷新するためには多岐にわたるエンジニアが必要になります。当金庫では、システム部のマンパワーも限られているうえ、既存システムの更改時期の都合上、スケジュールもタイトにせざるを得ませんでした。そうした条件下にあつて、これだけ大規模かつ複雑なプロジェクトを無事に進めていけるだろうか、と、プロジェクトメンバーは不安を抱えていました。しかし、日本ユニシスさんはグループ各社からメンバーを選出し、設計・開発から導入後の運用・保守までフォローしていただける体制を組んでくれたので、非常に安心感がありました」(庄子氏)

こうした評価に加えて、情報提供や具体的な提案のなかに、信用金庫を含めた金融業界で培ってきた豊富な実績やノウハウが駆使されていたことも信頼感につながり、2012年1月、日本ユニシスは新統合OAシステムの構築パートナーに選定されました。

多様な先端技術を取り入れ 統合OAシステムの 全体最適化を図る

新統合OAシステムでは、課題となっていた「セキュリティと効率性の両立」を実現するために、全店のパソコンに「シンクライアント」を採用しました。シンクラ

イアントとは、ユーザーの利用するパソコン(クライアント側)にはデータを保持せず、サーバ側で保持・処理する仕組みのことで、これにより、情報漏えいを防止すると同時に、パソコンの処理速度も向上します。

サーバについては、日本ユニシスのプライベートクラウドパッケージ「JCLOUD@iCloud」を採用し、仮想化技術によって約200台のサーバを35台のブレードサーバに統合しました。JCLOUD@iCloudは、企業内にクラウド環境を構築する「プライベートクラウド」に必要な機能を実装したオールインワンのパッケージで、規模や機能に応じて最適なクラウド環境をリーズナブルに構築できます。

プロジェクトの実務面を担ったシステム部 調査役の三杉真人氏は、その狙いを次のように説明します。

「プライベートクラウドによるサーバの仮想化は、当初からの要望の1つでした。これまで、例えばハードの更改時期を迎えたときに、『最新のハードでは従来のOSが使用できない』などの理由から、ソフトも含めて更新しなければなりませんでした。その分、大がかりになりコストも発生します。仮想化によってハードとソフトを切り離すことができたので、今後はそれぞれ最新版に更新することができます」

サーバ仮想化のメリットは、それだけで

家族、スマイル。

KAWASHIN * SMILE

川崎信用金庫
<http://www.kawashin.co.jp/>

かわしんは、
あなたの笑顔が見たいから
もっと近くで、ずっとそばで
あなたの暮らしを応援します。

はありません。

「当金庫では、口座管理システムや本人確認システムなど、さまざまなシステムを構築していますが、必要に応じて個別に構築してきたため、それぞれ専用のサーバや端末を必要としており、大変非効率でした。汎用性の高い仮想サーバとしたことで、今後は各システムを移行し、当金庫の統合基盤としてシステムを問わず活用していくことが可能になります」(三杉氏)

それ以外の課題についても、「業務継続性」についてはハードウェアの二重化とクラウド化によってシステム停止リスクを低減。「戦略的な情報活用」については金庫内ポータルサイトの再構築により情報共有を強化。「運用負荷とコスト軽減」については、統合バックアップ・統合運用監視システムや信用金庫向け共同利用型インターネット接続サービスの活用によって実現するなど、それぞれ先進かつ信頼性の高いソリューションを提供しました。

短期間での構築から 導入サポートまで グループ総合力で対応

新しい統合OAシステムが稼働を開始したのは、開発着手から約1年後の2013年11月のことでした。



「これだけ多彩なソリューションを盛り込んだシステムの全面刷新を約1年という短期間で終わることができたのは、こちらがお願いしたこととは言え、正直、驚いています」と三杉氏は振り返ります。

「金融機関という性質上、私どもの業務は止めることが許されず、業務のない夜間や土日しか作業できないという制限がありました。こうした厳しいスケジュールのなかでも、日本ユニシスさんはこちらの事情を汲み取り、限られた時間内で作業を進めてくれました。豊富な開発実績に加えて、当初期待していたグループとしての総合力があつたのだと思っています」(三杉氏)

こうした対応面での高評価は、導入に当たつてのフォローについても同様だったと言います。

「長期にわたって毎日、使い続けてきたシステムを刷新するわけですから、われわ

れにも、ユーザーである職員にも不安がありました。スムーズな導入に向けて、日本ユニシスさんにはマニュアル類の整備から、職員を対象とした集合研修の実施まで、さまざまな支援をお願いしました。部署や役職に応じてさまざまな研修が必要になりましたので、日程をやりくりするだけでも大変だったと思います。が、本部と店舗で別々の講義内容や教材を用意いただくなど、きめ細かく対応していただけて本当に助かりました」(三杉氏)

業務処理の効率と 情報管理の精度向上に 確かな成果

新システムの稼働開始から数カ月を経過、職員たちの評価は上々だと言います。

「顕著な成果といえるのが、やはりレスポンスの向上です。旧システムでは、毎朝パソコンを立ち上げる際にログオンが集中するため、業務開始まで10分以上を要することも少なくありませんでした。新しいシステムでは、条件にもよりますが、おおむね数分以内で業務を開始することができます」(三杉氏)

パソコンの立ち上げ以外にも、処理スピードの向上や、容量オーバーで業務が停止することもなくなるなど、業務効率



の改善に大きな成果があったと言えます。

「ユーザーにとって、もう1つの大きなメリットが、金庫内ポータルサイトの改善です。これまでのポータルでは、トップページはメニュー画面のみで、新着情報があるかどうかは、メニューを操作して個別ページを見なければ分かりませんでした。新しいポータルでは、トップページに新着情報

が表示されるためタイムリーな情報共有が可能になり、必要な情報を取りこぼすこともなくなりました。今後は、このポータルの機能をさらに強化し、戦略的な情報共有・活用役立てていきたいと思っています」(庄子氏)

ICTパートナーとして さらなる支援に期待

「新システムの稼働開始からはまだ半年程度であり、その真価を発揮するのはこれからだと思います。日本ユニシスさんには、稼働後も保守要員として常駐して

もらっていますので、『構築して終わり』ではなく、本部や各店舗の職員の評価をふまえて継続的な改善に協力いただき、私たちと一緒にシステムを成長させていってほしいですね」と、三杉氏は今後の展望を語ります。

庄子氏も、さらなるシステム改善への意欲を次のように語ります。

「当金庫のOAシステムの改善は、まだ始まったばかりです。今回の統合OAシステムによって、汎用性の高い情報基盤が構築できましたので、これを活用して、より効率的で使い勝手の良いシステムをつくり上げていきたい。そのためには、ICTの専門家による提案や情報提供が欠かせませんので、今後もきめ細かな対応を期待しています」

最後に、前島氏が今後の日本ユニシスに期待することを語ります。

「冒頭でも言いましたように、当金庫にとってOAシステムは業務遂行に不可欠な『道具』ではありますが、当金庫の人的資源には限りがあり、現状では、約1500名もの職員の業務基盤を数名で支えています。それゆえ、ICT分野で頼りになるパートナーの存在が不可欠です。日本ユニシスさんには、引き続き、さまざまなことを教えていただき、相談に乗っていただきたいと思います」



グループの総合力に支えられて、 広範囲にわたるシステムを短期間で構築できました。

今回の案件では、担当営業として、川崎信用金庫様内の方針策定段階から、勉強会といった形でコミュニケーションの機会をいただきました。ご対応いただいたシステム部の皆様には、私たちの情報提供や提案に真摯に向き合っていたいただき、「こちらが良い提案をすれば、必ず評価していただける」と確信できました。結果的に、当社をパートナーとして選んでいただいたことに、深く感謝しています。

構築段階では、私自身、これだけ広範囲にわたるシステムを短期間で構築するのは初めての経験であり、当社の各部

署、各グループ会社から専門メンバーが集まったプロジェクトを円滑に進めていけるか不安もありました。各メンバーの頑張りはもちろん、各部署・各社の組織的な支援、お客様の協力もあって、1年間の構築期間を経て無事本番稼働したことは改めて自社の技術力と底力を実感しました。

今回の案件を起点として、今後、川崎信用金庫様とより一層のパートナーシップを構築し、統合OAシステムの改善・拡充はもとより、それ以外の課題に対しても有益な提案をしていきたいと思っています。



落合 壮彦

金融第二事業部
営業二部 第一営業所